

## 示-87

高齢者（70歳以上）肺癌の臨床統計的観察

—日本TNM分類肺癌委員会報告—

関東通信病院○吉村克俊 山下延男

全国肺癌登録1975・76・77年次4,931症例（男3,770例、女1,160例）のうち高齢者肺癌は1,081例21.9%（男875例22.6%、女206例19.1%），そのうち80歳以上は70例1.4%（男60例1.6%、女10例0.9%）を占める。予後：5年率は高齢者では全例6.0%（69歳以下15.1%），男5.9%（69歳以下13.4%），女6.3%（69歳以下18.7%）であり，80歳以上では2.9%で，高齢の方が有意に予後が悪い。背景因子：臨床病期Iaの割合は高齢者の全例23.6%（69歳以下25.9%），男23.7%（69歳以下24.0%），女23.3%（69歳以下31.6%）と減少し，Ⅲ+Ⅳ期は女で62.7%（69歳以下51.1%）で増加している。組織型別：高齢者扁平上皮癌全例46.7%（69歳以下31.1%），男51.1%（69歳以下45.2%），女28.2%（69歳以下16.8%）で増加，腺癌全例31.1%（69歳以下39.5%），男26.2%（69歳以下31.6%），女51.9%（69歳以下63.2%）で減少し，小細胞癌（燕麦細胞を含む）全例13.9%（69歳以下12.0%），男14.1%（69歳以下9.6%），女12.6%（69歳以下9.6%）で増加している。治療法：高齢者の手術率は全例30.2%（69歳以下50.1%），男30.7%（69歳以下49.2%），女28.2%（69歳以下52.6%）で，80歳以上では10.0%にすぎず減少し，治癒手術率は全例11.7%（69歳以下20.1%），男12.2%（69歳以下18.9%），女9.2%（69歳以下24.4%），80歳以上では2.9%にすぎない。放治率は全例41.5%（69歳以下41.2%）と変りがない，化療率では全例62.8%（69歳以下73.9%）で減少し，免疫では全例24.8%（69歳以下27.9%）で減少し，無治療率は全例10.8%（69歳以下4.9%）と増加している。80歳以上で放治率40.0%と不变，化療率は47.1%，免疫率18.6%で減少し，無治療22.9%と増加している。切除例は1,927例（全例の39.1%）であるが，高齢者では289例（全例の5.8%，高齢者全例の26.9%）であり，69歳以下の切除例は1,635例（全例の33.2%，69歳以下全例の42.5%）と比べ減少している。切除範囲について高齢者の肺切除は14.3%（69歳以下26.9%）で減少し，肺葉切除は80.1%（69歳以下71.4%）でやや多く，区域切除3.5%（65歳以下0.1%），部分切除2.1%（65歳以下0.6%）で，その割合が多い。まとめ：高齢者症例では臨床病期Iaの割合が減少し，Ⅲ+Ⅳ期は女について増加している。組織型では扁平上皮癌が増し，腺癌が減少し，小細胞癌が増している。手術率および治癒手術率は減少し，80歳以上で特に減少が著しい。放治率は変りないが化療，免疫率が減少し，肺切除は減少し，区域部分切除が増している。高齢者の予後は69歳以下に比し有意に減少している。

## 示-88

日本病理剖検誌よりみた高年者（70才以上）の肺癌とその推移（1958-80年）

浜松医科大学第一病理

○森田豊彦

癌研究所病理部

菅野晴夫

目的：日本病理剖検誌に登録の始まった1958年度からの東大医学部病理学教室の肺癌剖検例について第16回の本学会より種々の角度より検討し報告してきた。昨年の本学会では、男女肺癌の高年移動、男性扁平上皮癌及び女性全体のピークが60代から70代へ移動したことを報告（肺癌22:352、1982）した。日本の他施設の肺癌剖検例について高年移動の有無及び70才以上の肺癌の特徴を捕えるため以下の検討を行った。

方法：日本病理剖検誌第1-23輯（1958-80年度）に記載された性別、年令の明らかな肺癌剖検例につき、男女別、年令階層別に組織型を調べ検討した。未分化癌の実体は明らかでないが、やむを得ずそのまま組織型割合に加えた。結果を各年毎及び5年区分（第1-5期）してその推移をみた。

結果：1. 実数の推移 70代以上の症例は1958年男51、女10例、1970年男269、女111例、1980年男956、女290例と男性19倍、女性29倍と増加が著明である。肺癌例中占める割合も男性では1958年の17%から80年の43%へ、女性では11%から39%へと著増している。

2. 男女比 日本の肺癌の男女比は2.5-3と欧米に比し低いが、今回も全体の男女比は2.8-3.0の間にあった。70才未満と以上の男女比を比較すると、5年区分で70才未満性比は2.7と3.0の間、70才以上性比は3.1-3.4の間にあり、常に70才以上の性比が70才未満のそれに比し高かった。

3. 組織型別年令分布 5年区分男性では腺癌と小細胞癌のピークは1期50代、以後60代、扁平上皮癌と大細胞癌のピークは1-4期60代で、5期は各組織型とも70才代がピークとなっている。女性では腺癌は1期、大細胞癌は1-2期が50才代ピーク、他は何れも60代がピーク、扁平上皮癌のみ4期は70代ピーク、5期は腺癌の60代を除き70代がピークと高年移動が認められた。

4. 70才以上肺癌の組織型割合 男性では腺癌31、扁平上皮癌37、小細胞癌11、大細胞癌7、未分化癌12%であり、扁平上皮癌が最も多く、70才未満は腺37、扁31、小11、大8、未12%で腺癌が最も多い。女性では腺癌48、扁平上皮癌25、小細胞癌10、大細胞癌6、未分化癌8%で、70才未満は腺57、扁17、小8、大6、未10%で、ともに腺癌が最も多いが、70才以上では腺癌が半数以下で扁平上皮癌が25%と高い。70才未満では腺癌が過半数を超える扁平上皮癌が17%と低い。

以上男性では70才未満は腺癌、70才以上は扁平上皮癌が最多組織型だが、女性では常に腺癌が最多組織型であるが、70才以上は扁平上皮癌の割合が増加する。